

# 定期作況報告

平成27年8月  
(8月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

# 1. 気象経過

7月下旬：最高気温、最低気温および平均気温はともに平年より極めて高かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比67%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比64%）。

8月上旬：最高気温および最低気温はともに平年並で、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年よりやや多かった（平年比123%）。日照時間は平年並であった（平年比117%）。

8月中旬：最高気温は平年より極めて低く、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年より低かった。降水量は平年より少なかった（平年比56%）。日照時間は平年並であった（平年比83%）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は、気温は平年よりやや高く、降水量は平年よりやや少なく、日照時間は平年並であった。

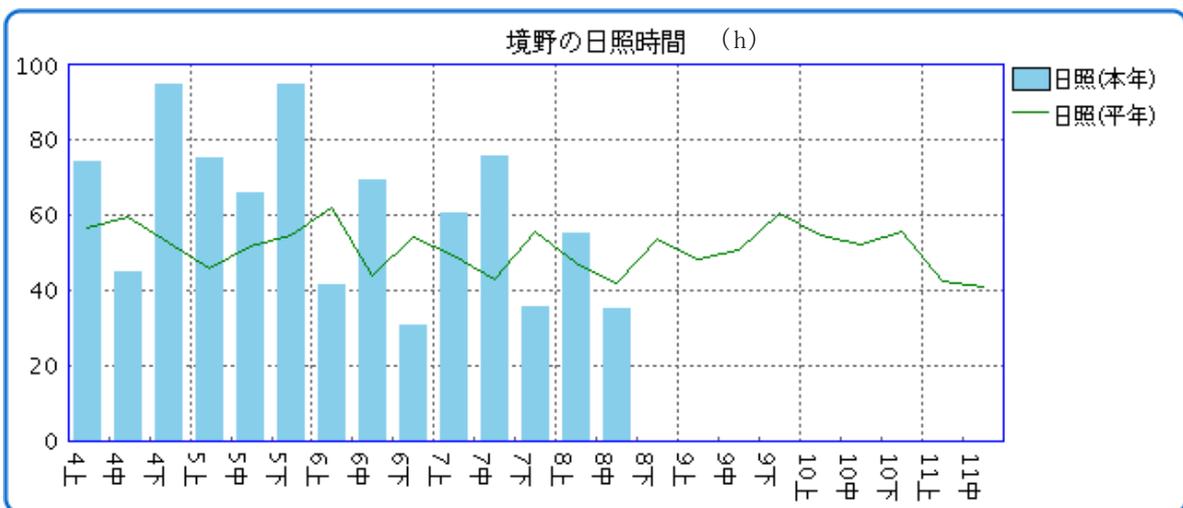
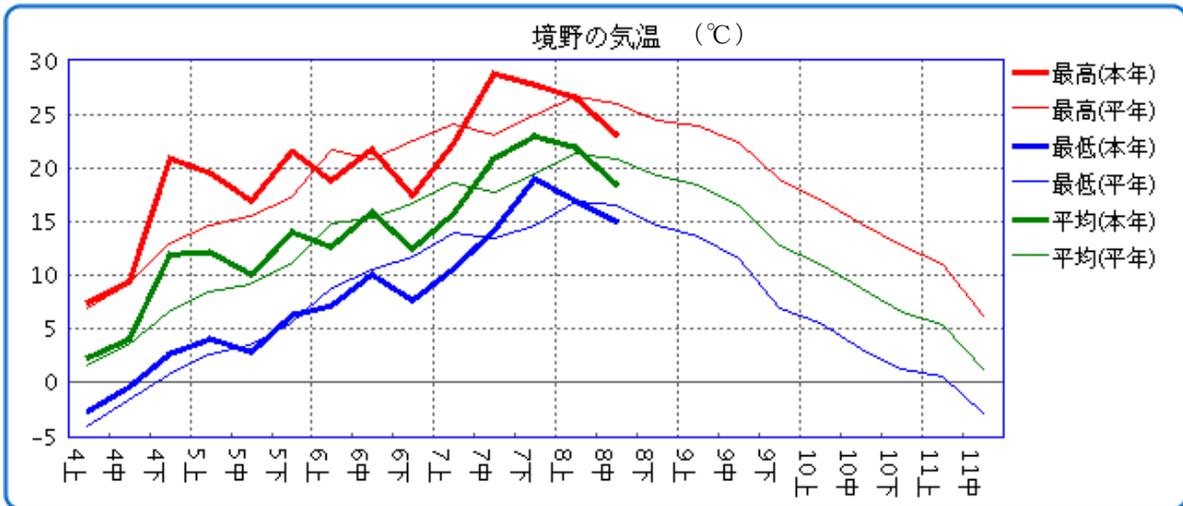
気 象 表

月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	22.9	19.4	3.5	27.7	25.0	2.7	19.0	14.6	4.4
8月 月上旬	21.9	21.3	0.6	26.5	26.7	-0.2	17.0	16.9	0.1
8月 月中旬	18.4	20.8	-2.4	23.1	26.0	-2.9	15.1	16.6	-1.5

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	29.0	43.1	-14.1	35.8	55.8	-20.0
8月 月上旬	38.0	30.9	7.1	55.4	47.5	7.9
8月 月中旬	33.5	60.2	-26.7	35.1	42.1	-7.0

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦 作 況：良

事 由：出穂期は平年より7日早く（既報）、成熟期は平年より2日早い7月24日であった。登熟期間が平年より5日長かったことと、7月上・中旬の日照時間が平年より多かったことから子実の充実は良好となり、リットル重および千粒重は平年を大きく上回った。子実重は平年比117%であった。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	7.24	7.26	△2
子実重(kg/10a)	810	694	116
同上平年比(%)	117	100	17
リットル重(g)	818	794	24
千粒重(g)	44.2	37.2	7.0

注) 「きたほなみ」の平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、25年(最豊)を除く5か年の平均。

### 2) 春まき小麦 作 況：やや良

事 由：成熟期は平年並から1日遅かった。出穂期が平年より4～5日早かったため、登熟期間は平年より5日長かった。稈長は平年並からやや低く、穂長は平年並で、穂数は平年より多かった(前報)。倒伏は発生しなかった。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.5	8.4	1	8.7	8.7	0

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

### 3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況：平年並

事 由：7月下旬の気温が平年より極めて高かったため、開花期、抽糸期ともに平年より3日早かった。しかし、8月中旬の気温が平年より低かったため、草丈、葉数はいずれも平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
開花期 (月.日)	8.1	8.4	△3
抽糸期 (月.日)	7.31	8.3	△3
草丈(cm) (8月20日)	307.7	310.7	△3.0
葉数(枚) (8月20日)	14.9	14.7	0.2

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

### 4) 大 豆

作 況：平年並

事 由：6月下旬～7月上旬の低温により開花始は平年より3日遅かった。その後、7月下旬以降の高温により生育は急速に回復し、主茎長、主茎節数、分枝数および着莢数はほぼ平年並となっており、倒伏も生じていない。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.21	7.18	3
主茎長(cm) (8月20日)	71.7	72.0	△0.3
主茎節数 (8月20日)	11.5	11.3	0.2
分枝数(本/株) (8月20日)	5.5	5.6	△0.1
着莢数(莢/株) (8月20日)	74.6	76.0	△1.4

注1) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

## 5) 小豆

作況：不良

事由：6月下旬～7月上旬の低温により、開花始は平年より「サホロシヨウズ」で5日、「エリモシヨウズ」で4日遅かった。7月下旬以降の高温により主茎が急激に伸長し、蔓化した。このため、主茎長は平年を大きく上回り、いずれの品種もかなりの倒伏が認められている。蔓化と倒伏による相互遮蔽および8月中旬の低温により、いずれの品種も着莢数は平年を大きく下回っている。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月・日)	7.26	7.21	5	7.27	7.23	4
主茎長(cm) (8月20日)	103.8	75.0	28.8	92.3	65.0	27.3
主茎節数 (8月20日)	13.9	13.2	0.7	14.4	13.7	0.7
分枝数(本/株) (8月20日)	3.7	4.8	△ 1.1	2.9	4.5	△ 1.6
着莢数(莢/株) (8月20日)	40.0	62.2	△22.2	36.8	66.5	△29.7

注1) 平年値は前7か年中、平成20年(最豊)、24年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

## 6) 菜豆

作況：平年並

事由：7月下旬以降の高温により生育は回復し、草丈は平年よりやや小さいが、着莢数は平年並となっている。調査時点で黄変が始まっている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	45.3	50.6	△ 5.3
主茎節数 (8月20日)	5.4	5.2	0.2
分枝数(本/株) (8月20日)	4.9	5.5	△ 0.6
着莢数(莢/株) (8月20日)	22.6	21.7	0.9

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが4cm以上のものを示す。

7) ばれいしょ 作 況：やや良

事 由：この1か月間は平均気温が平年よりやや高かったため、地上部生育の進行は早く、「男爵薯」では黄変期に達している。塊茎の肥大も順調に進み、「男爵薯」の上いも重、でん粉価はほぼ平年並である。「コナフブキ」では、でん粉価は平年並であるが、上いも重は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎長(cm) (8月20日)	46	52	△ 6	69	84	△ 15
茎数(本/株) (8月20日)	3.1	3.4	△0.3	3.3	3.4	△0.1
上いも重(kg/10a) (8月20日)	4360	4416	△56	4253	3400	853
でん粉価(%) (8月20日)	14.8	15.1	△0.3	20.7	20.6	0.1

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24(最豊)を除く5か年の平均

8) てんさい 作 況：平年並

事 由：この1か月間は、平均気温が平年よりやや高かったため、生育は回復し、全ての項目でおしなべて平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	60.5	61.8	△ 1.3	55.6	57.7	△ 2.1	68.0	61.3	6.7
生葉数(枚) (8月20日)	29.7	26.5	3.2	29.7	26.0	3.7	22.0	21.6	0.4
茎葉重(g/個体) (8月20日)	905	843	62	891	899	△ 8	860	780	80
根重(g/個体) (8月20日)	743	696	47	750	779	△ 29	515	602	△ 87
根周(cm) (8月20日)	31.6	30.3	1.3	32.1	32.9	△ 0.8	27.8	29.8	△ 2.0

注1) 注平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 直播「リッカ」は参考品種、平年値は前5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況:不良

事由:2番草は平年より4日早い8月7日に収穫を行った。2番草収穫時の生育は、平年と比べ節間伸長程度はやや少なかったが、草丈は同程度で、2番草の乾物収量は平年比101%と平年並であった。一方、1番草との合計乾物収量は平年比87%と少なかった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	2番草	8.7	8.11	△4
節間伸長程度	2番草	2.0	2.9	△0.9
病害罹病程度	2番草	3.0	3.4	△0.4
草丈(cm)	2番草	65	61	4
生草収量(kg/10a)	2番草	899	882	17
乾物率(%)	2番草	21.2	22.3	△1.1
乾物収量(kg/10a)	2番草	191	190	1
同上平年比(%)	2番草	101	100	
乾物収量(kg/10a)	1+2番草	682	784	△102
同上平年比(%)	1+2番草	87	100	

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

節間伸長程度は、1:無~9:極多。病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

## 10) たまねぎ

作 況：平年並

事 由：7月下旬以降、気温は高めに推移し、適度な降雨もあったことから、生育は概ね回復した。試験ほ場全体に地上部の葉先枯れ症状が若干認められているものの、倒伏期および一球重は概ね平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期 (月.日)	7.11	7.6	5	7.25	7.21	4
倒伏期 (月.日)	8.1	7.31	1	8.8	8.7	1
根切日 (月.日)	8.17	8.16	1	—	8.27	—
一球重(g) (8月20日)	258.1	259.2	△1.1	209.9	220.1	△10.2

注) 平年値は前8か年中、平成19年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、25年(最凶)を除く5か年の平均。